

本目録掲載図版に関しまして

本目録に収録されている銅版画作品は父・麻田浩がアトリエにて保管しておりました作品となります。アトリエに残されていた銅版画作品全種を平成 28 年 3 月に遺族より南丹市立文化博物館に寄贈させていただきました。

これら作品のなかには麻田浩が未発表としておりました作品も含まれております。渡欧後から 1978 年までの作品については『版画芸術 24』(1979 冬号)にて「麻田 浩 版画総目録 1972～'78」として総目録が発表されています。本目録の 15 番、16 番、17 番、18 番、19 番、20 番、21 番、22 番、23 番、25 番、26 番、27 番、29 番、30 番、31 番、32 番、36 番、37 番、38 番、39 番、41 番、44 番、45 番、46 番、57 番、58 番、61 番、102 番は渡欧後に制作された作品と推察されますが、この総目録に含まれていません。なかには、作品として発表するレベルに達していないと思われるものもありますが、資料性の観点から今回の掲載を許可いたしました。

(訂正とお詫び)

私が書いております文章の訂正となります。

・銅版画制作手順につきまして

ここで説明されているのは銅版画の一技法である「エッチング」のみになります。他に「アクワチント」「マニエルノワール (メゾチント)」などの技法があります。麻田が用いた技法については南丹市立文化博物館調査報告書・第 6 集「麻田浩創作ノート」(2017 年 3 月)をご参考ください。

私は一度だけ、年賀状のために父と一緒に銅版画制作をしたことがあり、その時に用いたのが「エッチング」であったために間違った記述となりました。不明をお詫びいたします。

・銅版画刷り機について

残されている刷り機が日本製であることより、パリから持ち帰ったのではなく、日本で購入したと推測されます。

平成 29 年 9 月 17 日

麻田 弦 (麻田浩長男)